

## 香料自粛のお願い

著者	永吉 雅人
雑誌名	新潟日報 上越かわらばん
巻	2096
ページ	2-2
発行年	2017-07-02
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10631/00001405">http://hdl.handle.net/10631/00001405</a>

私は今、上越市内の小学生の保護者を対象に、「化学物質過敏症についてアンケート調査をするための準備をしています。」

県立看護大学 人間環境学領域・准教授 永吉 雅人

した市民団体の働き掛けで「香料自粛のお願い」

この記事が出るころに「調査中」になっていればうれしいです。

## 香料自粛のお願い

さて、化学物質過敏症の症状の一つに、香水や柔軟剤、制汗剤、整髪料、芳香剤などの化学物質を多く含む「臭い」に敏感になることがあります。

「臭い」を感じる人が多いと、公共施設や商業施設など多くの人が集まる場に行くことが難しくなる場合があります。

「臭い」を感じる人が多いと、公共施設や商業施設など多くの人が集まる場に行くことが難しくなる場合があります。

「臭い」を感じる人が多いと、公共施設や商業施設など多くの人が集まる場に行くことが難しくなる場合があります。

イライラしたり。ここで、臭いの中でも意図的につける「香料」

日のように流れてくる洗濯物の臭いが耐えられない、電車の中ですれ違

ています。この香りが心地よいと感じる人がいる一方で、苦しいと感じる

生活センターに寄せられる被害届も増えてい

ます。香料被害者を中心に

苦しいと感じる人がいることを前提として、公共施設や商業施設など多くの人が集まる場に行く

ことは、多くの人が集まる場だからこそ使いたいという気持ちを抑えつつ、

香料(香水・制汗剤・整髪料など)の使用は控え

めにするなどの配慮をしていただければありがたいです。特に、小中学校

の授業参観では、お子さんの健康被害が多くある

のです。ぜひこの機会に、普段お使いの製品について見つめ直してみたい

かがでしょうか。